

ラーニングサポーター

1. はじめに

大学における学びのあり方は多様化し、双方向型の学びがより一層意識されるようになった。そこで、学生の学びに対する考えを直接届けることをねらって、昨年度より「ラーニングサポーター」制度を始動させた。

昨年度は、まずは教職員と率直な意見を交わす場を設けた。昨年度はパイロット的な意味合いで、学生たちが本学での学びについてどのような意識を持っているかを尋ねた。いくつか意見が挙がった中で、ここでは、以下の意見を紹介したい。

授業評価アンケートの自由記述欄は、現在 150 文字以内であるが、意見がまとめられない。良い評価であっても、改善してほしいという要求であっても、150 文字で説明するのは難しい。150 文字を超えてしまうと登録そのものができないため、結局ありきたりな言葉でコメントを提出した。

上記の意見を受け、現在、授業評価アンケートの自由記述欄は 400 字に設定されている。確かに 400 字であれば、好意的な評価であっても、改善を希望する要望であっても、ある程度具体的に伝えることができる。こういった感覚は、授業評価アンケートを実際に記述する側である学生だからこその実感であろう。

とはいえ、ラーニングサポーターからの意見を、本学での学びのシステムにすべて反映させるのは難しい。ただ、本例のように対応が容易なものは随時反映させることで、ラーニングサポーターの学生たちは、大学での学びを教職員と共に創っている意識を持つことができる。つまり、「共創」という意識が、ラーニングサポーターの活動において重要となる。

今年度は、学生側が積極的に企画・発信することをねらって、「レポートの書き方」講座を企画した。学びを創る当事者には「教職員と学生」「学生と学生」という関係性を想定することができるが、今年度は「学生と学生」という関係に視点を置いた活動を手掛けることにした。

2. ラーニングサポーターの組織

ラーニングサポーターに類する組織は「学生 F D」とも称される。その目的は、学生と教職員が協働しながら、教育環境ならびに授業内容を改善・向上させていくことにある。具体的には、学生が授業や学習環境について自由に語り合う場を主催したり、学生目線でおすすめの授業を紹介したりするような取り組みがある。また、学生によるシラバスの読み説き方、上級生による「学び方講座」の実施（ポートフォリオの活用、学びのロールモデルの紹介、学内施設の活用方法）、学生発案の授業の実施、なども企画されている。

本学では、2023 年度にパイロット的に組織を作り、2024 年度は、2023 年度に学生と共に考えた活動案に基づき、「レポートの書き方」講座を実施した。「レポートの書き方」講座を企画した背景として、以下の 3 点を挙げる。

- ・レポートの書き方は、1 年次に学ぶことが多い内容であるが、実際は、レポートを書く経験を

重ねながら徐々に身につけていくスキルであるから。

- ・学科や専攻の異なりを超えて、すべての学生が身に付けるべきスキルであるから。
- ・実際に、学生がレポートを書く際に意識しているスキルこそが、まずは多くの学生に身につけてほしいスキルだから。

学科を問わず、「レポートの書き方」は、初年次教育に相当する授業内で指導されることが多い。本学でいえば、初年次教育に相当する授業は「入門ゼミナール」にあたる。しかし、「入門ゼミナール」は1年次の前期開講科目であるため、「入門ゼミナール」で指導された「レポートの書き方」を、自らの経験と結び付けて理解することは難しい。なぜなら、学生たちは、大学に入学してからレポートを提出した経験がないからである。

また、具体的な執筆手順や細かい決まりは、それぞれの専門領域において異なってくるが、レポートを書く際に留意すべき基本的なことは、大部分は変わらない。その点も全学の学生を対象にした学びのスキルアップ講座において、「レポートの書き方」がふさわしいと思った点となる。

そして、何よりも、普段学生が意識していることこそが、多くの学生がまずは身につけるべき基本的なスキルであると考えたからである。

以上のような考えのもと、ラーニングサポーターによる学び方講座第一弾として「レポートの書き方」をテーマとして設定した。

3. 実施報告

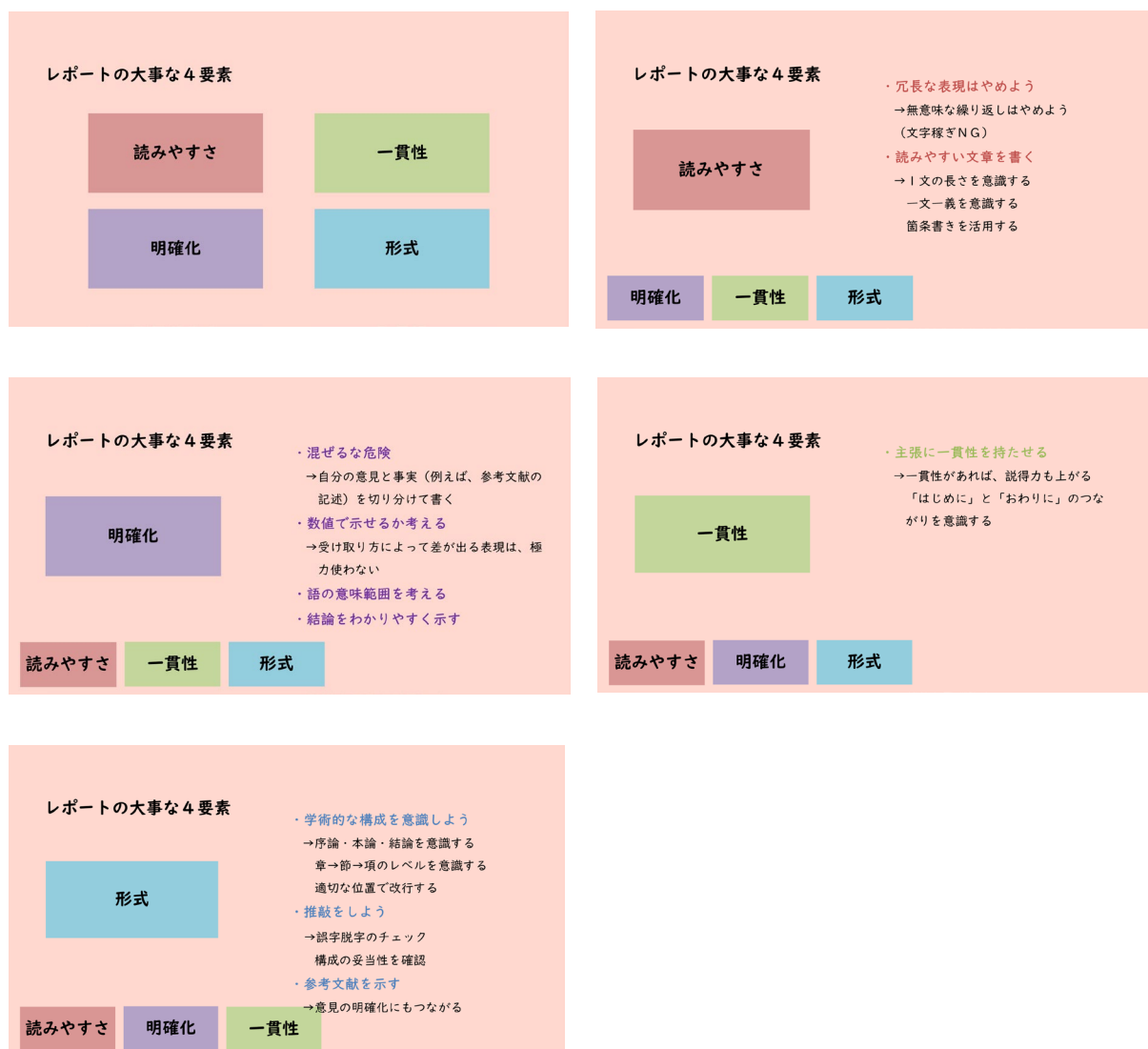
実施概要、学生が作成し当日上映したスライド、配布資料について紹介する。あわせて、参加者の感想と、「レポートの書き方」講座の次の展開について考える。

(1) 実施概要

イベント名 : ラーニングサポーターと考えた！レポートのコツ10選
 実施日 : 12月23日(月) 12:20~12:50
 場所 : 751教室
 参加者 : 12名(内 ラーニングサポーター4名)

(2) 当日上映したスライド





(3) 配布資料

本講座は、昼食時間を活用した短い講座であったため、スライドの提示のみで、参加者に十分な理解を促すのは難しい。そこで、スライドの一部をまとめた配布資料と、レポート執筆にあたって便利に参照してもらえ参考資料を配布することにした。

- ・スライド内容の補足
- ・レポートチェック表 (ループリック)
- ・レポート・論文にお役立ち！使える動詞一覧

※学術用語としてふさわしい表現の一覧

例：説明行動に相当する動詞群

紹介する・説明する・解説する・詳述する・概観する・概説する・要約する…

スライド内容は、ラーニングサポーターの学生が考案した内容をベースに、担当教員が助言を与えたものである。デザインは実施時期のクリスマスに合わせて学生が作成した。配布資料につ

いては、担当教員が日頃の指導で使用している資料を学生に共有し、それを展開することにした。

(4) 参加者の感想

翌日から冬期休暇にあたるタイミングでの実施となったからか、参加者は想定したよりも少なかった。しかし、意欲的な参加者が多く、以下のような感想が集まった。

①講座の感想

- ・何回かレポートの書き方を学んでも、本当にこの書き方でよいのか不安な部分があったので、コツを聞けて良かったです。配布された動詞の表がすごく助かる。
- ・レポートが出ると毎回苦戦しているので、コツをまとめて聞くことができて良かったです。
- ・改めてレポートを書くにあたって大切なことを知れて良かったです。資料も参考になりました。
- ・相手を意識したレポートの書き方が大切だと思った。
- ・今までレポートの書き方がよくわからないまま書いていたので、今日教えてもらったことを今後レポートを書く時に意識します。

②今後開催を期待する講座

- ・リアクションペーパーの書き方
- ・板書がない先生の授業のノートの取り方
- ・自己紹介・アピールの仕方（3年生だったため就活を意識してか？）

今後開催を期待する講座は、本講座が「書く」ことに関わるものであったことから、「書く」内容に関するものが多く挙がった。いずれも、日々、学生が経験している「書く」ことである。

(5) まとめと今後の課題

参加者は少なかったものの、参加者の満足度は高いものがあった。特に、配布資料についての満足度が高く、要点が簡潔にまとめられている点が好評であった。その一方で、実施時期が12月の最終日となってしまったため、もう少し学生に余裕がある時期に実施ができたならよかったと振り返る。

続いて、「レポートの書き方」講座に関連して、次の展開を考えてみたい。まず、今回講師役を務めた学生たちは、前年度「授業評価アンケート」の自由記述の文字数制限について、意見を挙げた学生たちであった。つまり、もともと「書く」という点については関心があり、今回の講座は、彼女たちの関心を活かしたものとなった。ラーニングサポーターは、学生たちの自発的な意思により活動が展開していくことに意義がある。そういう意味で、学生の関心や特技を活かすことができた本講座は、講師役の学生にとっては自己有用感を高める機会となった。

さらに、「書く」ことに関しては、今後は生成AIの利活用についても考えていかなければならないだろう。生成AIの利活用について学生の関心はかなり高い。各授業内においても、生成AIについての扱いは異なっていると思われる。まずは、本学における生成AIの利活用について、その実態を調査し、学びの当事者である学生と共に、効果的な使用方法や使用の留意点を考えて

いきたい。

また、スライドなどの資料については、Web 上にアーカイブをしておくことを検討してもよいだろう。本学学友会のページのように、学生が主体的にページをデザインできるような仕組みを考えていきたい。

4. おわりに

今後はメンバー募集も含めて、年間計画を早めに立案し、前期・後期ともに何らかのイベントが実施できるとよい。また、他大学の活動に関するリサーチを継続的に実施し、よりよい組織を目指していきたい。

そのためには、学生たちの「やってみたい」という意欲をくみながら、取り組みやすい内容から活動を推進していくことが肝要となる。学びの情報発信という点でも、ラーニングサポーターに対する期待は大きい。活動の記録を Web 上に掲載し、本学の学びを学内外に発信していきたい。

数年後、ラーニングサポーターの活動から、ロールモデルとなる学生が現れ、活動が自走していくことを願う。

以上